

FLORA KANAGAWA

Jun. 10. 2025 No.96

神奈川県植物誌調査会ニュース第 96 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

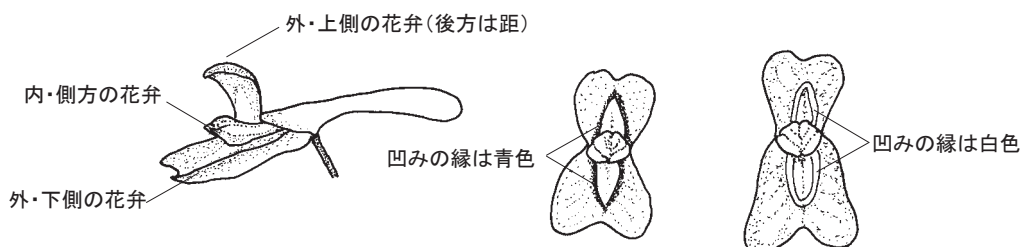


図1. ヤマエンゴサクとキンキエンゴサクの花(左・中:ヤマエンゴサク, 右:キンキエンゴサク;勝山, 2024を改図).



図2. 相模原市緑区串川のヤマエンゴサク (2019年4月17日 撮影: 勝山輝男 KPM-NX0002044).



図3. 藤沢市川名のキンキエンゴサク (2025年3月31日 撮影: 中山博子 KPM-NX0002045).

藤沢市川名のキンキエンゴサク

(勝山輝男)

キンキエンゴサク *Corydalis papilligera* Ohwi はヤマエンゴサク *C. lineariloba* Siebold & Zucc. に似たケシ科キケマン属の多年草で、埼玉県・新潟県以西の本州に分布が知られていた(福原, 2016)。2024年4月の神奈川県植物誌調査会総会の席上で、奥多摩や高尾山でキンキエンゴサクが見つかった

たことが話題になり、神奈川県内にも分布している可能性があると考えた。福原(2016)によると、種子の表面が平滑であればヤマエンゴサク、小突起が密生していればキンキエンゴサクである。また、本多(2022)によると、花弁4個のうち、上下(外側)の2個は大きく、その向軸面中央にある凹みの縁が青く縁どられていればヤマエンゴサク、白く縁どられていればキンキエンゴサクであり(図1)、

花の正面から撮影したアップの写真があれば識別が可能である。

ヤマエンゴサクは『神奈川県植物誌 2018』の分布図では小仏山地～中津山地、境川段丘崖下～多摩丘陵、横浜市南部～藤沢市の丘陵、秦野市ヤビツ峠付近、山北町の洒水の滝周辺に分布点が打たれている。手持ちのヤマエンゴサクの写真調べたが、県内（相模原市緑区串川）で撮影した写真はヤマエンゴサクであった（図 2）。また、識別が可能な標本がないか、生命の星・地球博物館の神奈川県産ヤマエンゴサクの標本を調べてみた。県内産標本は 16 シートあったが、種子がついている標本は無かった。本多（2022）によると、キンキエンゴサクは小葉が楕円形で、花は長さ 27～32mm と大きく、ヤマエンゴサクは小葉の形は変化に富み、花はやや小さく、長さ 20～25mm である。県内産の標本では 2017 年に藤沢市川名で採集された標本（KPM-NA0301897）が、花の長さ 25～27mm あり、楕円形の小葉をつけ、キンキエンゴサクの可能性があった。しかし、変異の幅は重複するため、どち

らであるか確定するには至らなかった。このことについては横浜植物会の会報第 266 号に書いた。

2025 年春、藤沢市川名のヤマエンゴサク標本を採集した中山博子さんから「キンキエンゴサク？」と花の写真が送られてきた。上下（外側）の花弁の向軸面中央にある凹みは白く縁どられ、まさしくキンキエンゴサクであった（図 3）。先の藤沢市川名で採集された標本（KPM-NA0301897）は、キンキエンゴサクであると考えて良さそうである。

標本：藤沢市川名（FU-3）2017 年 4 月 8 日 埜村 恵美子・中山博子 KPM-NA030189

引用文献

福原達人, 2016. ケシ科・大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編, 改訂新版 日本の野生植物 2, pp.103–108.

本多郁夫, 2022. 石川県におけるキンキエンゴサクとヤマエンゴサク：同定のポイント・石川県立自然史資料館研究報告, (10) : 1–8.

勝山輝男, 2024. ヤマエンゴサクとキンキエンゴサク・横浜植物会会報, (286): 1.

神奈川県新産のセイタカカナビキソウ （オオバコ科）を川崎市に記録 （大西 亘・佐藤登喜子・勝山輝男）

川崎ブロックから同定確認にお預かりした標本群の中に、川崎市殿町の大きな道路沿いで採集された不明植物とされるものがあった。調べると、県新産のセイタカカナビキソウ *Scoparia dulcis* L.（オオバコ科；図 1）であったので報告する。

セイタカカナビキソウは、熱帯アメリカ原産のオオバコ科（旧ゴマノハグサ科）の一年草で、熱帯から亜熱帯を中心に世界各地に帰化し、国内では沖縄県に半世紀以上前から記録がある（初島・天野, 1958; 竹松・一前, 1987; 清水ほか 2001）。和名をシマカナビキソウとする文献もあるが（Comer・渡辺, 1969; 清水ほか, 2001）、ここでは和名初出と思われる初島・天野（1958）に従った。

国内での観察記録を web 上で探してみると、帰化が知られている沖縄県以外にも、北海道での育苗用培土から発生した報告（新田・成田 2023）のほか、千葉県（発生状況不明）、埼玉県（植木鉢）、東京都（東京薬科大薬用植物園、発生状況不明）、愛知県（発生状況不明；GBIF に登録された豊田市自然観察の森の収蔵標本）、大阪府（自宅の畑／発生状況不明）、山口県（寄せ植えの鉢）といった報告が見られた。

なお、今回報告した川崎市殿町の採集地は、大型車両が頻繁に通る大きな道路沿いの植込みの中で、他にヌルデ、ノブドウ、タケニグサ、イネ科など、いろいろあった中に見慣れない植物として目についたものである。同所では、その後ビロードモウズイカやカミヤツデも見つかっているが、セイタカカナビキソウは発見時以降には生育を再確認できていない。本州以北での越冬の可否は不明だが、これらの観察記録からすると、今後も県内で逸出個体を目にする機会がありそうに思われる。

採集された個体は花期終期～果実期の個体で、高さ約 30 cm 程度、茎は明瞭な主軸が発達して茎の中央から上部で花序を分枝し、葉腋に 4–5 mm の花柄を持つ 3–4 mm ほどの白色の花をつける（図 1, 2）。花後には 10–12 mm ほどの果柄の先に径 5 mm の球形の果実をつけ、0.3 mm 程度の種子を多数含む（図 2, 3）。花、果実とも長い柄を持ち、5 枚の楕円形の萼片に半分ほどを覆われた球形が特徴的である（図 2）。葉は対生し、ひし形に近いさじ形で上半部に丸みを帯びた粗い鋸歯を持つ。

標本の確認に便宜を図って下さった、かわさき宙と緑の科学館（川崎市青少年科学館）の高中健一郎学芸員と齋藤紫保の両氏に感謝申し上げる。

標本：川崎市川崎区殿町 2021 年 11 月 28 日 佐藤 登喜子 KMM-SP191488（図 1）。



図 1. セイトカカナビキソウ (川崎市川崎区殿町 2021 年 11 月 28 日 佐藤登喜子 KMM-SP191488)。



図 2. セイトカカナビキソウ標本 (KMM-SP-191488) の拡大。左：花序，右上：花 (スケール 1 目盛り=1 mm)，右下：果実。

引用文献

T. Corner E.J.H.・渡辺清彦，1969. 図説熱帯植物集成. 1147pp. 廣川書店，東京。

初島住彦・天野鉄夫，1958. 沖縄植物目録. 194pp. 琉球大学研究普及部，那覇。

新田紀敏・成田あゆ，2023. 育苗用培土から出る雑草に要注意. 光珠内季報，206: 5-9.

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七，2001. 日本帰化植物写真図鑑. 554pp. 全国農村教育協会，東京。

竹松哲夫・一前宜正 1987 世界の雑草 I —合弁花類—. 712pp. 全国農村教育協会，東京。

Web 上の観察記録のその出典：

千葉県四街道市付近 (観察状況不明)：四街道自然同好会『2023 年 9 月 29 日 中台・高麗神社観察会』<https://www.y-sizen.com/2023/09/29/%E4%B8%AD%E5%8F%B0%E9%AB%98%E9%BE%97%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E8%A6%B3%E5%AF%9F%E4%BC%9A/>

埼玉県 (植木鉢)：植物 SNS GreenSnap『花苺さんのセイトカカナビキソウ，シマカナビキソウ，野草の投稿画像』<https://greensnap.jp/post/21573293>

東京都 (東京薬科大学薬用植物園)：みんなの趣味の園芸『【薬用植物園で咲く花】の写真 IU80 さんのアルバム』https://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_image_slideshow&target_c_album_image_id=1764181

愛知県 (観察状況不明；豊田市自然観察の森に収



図 3. 種子 (スケール 1 目盛り=1 mm)。

蔵された GBIF の標本記録)：GBIF『*Scoparia dulcis* L. / 日本で採集』<https://www.gbif.org/ja/occurrence/1828742127>；<https://www.gbif.org/ja/occurrence/1828742115>；<https://www.gbif.org/ja/occurrence/1828741992>

大阪府 (観察状況不明)：みんなの趣味の園芸『いつもありがとうございます。この草の名前を教えてください。』https://www.shuminoengei.jp/?m=pc&a=page_qa_detail&target_c_qa_id=30292

大阪府 (自宅の畑)：図鑑.jp『シマカナビキソウでしょうか?』<https://i-zukan.jp/posts/2466>

山口県 (寄せ植えの鉢)：noko の花図鑑『初めて見た雑草！シマカナビキソウが寄せ植えの中で咲きました』<https://blog.goo.ne.jp/098765zxcv/e/0eb62eaf51b5c058a226c7771e916953>

鎌倉市で確認された

ニセカラクサケマン (ケシ科)

(山本 薫・中山 博子)

ニセカラクサケマン *Fumaria capreolata* L. (ケシ科) は地中海地方原産の帰化植物であり、神奈川県内では相模原市においてのみ確認されていた(秋山, 2003; 金井・田中, 2018)。今回、著者の中山が 2022 年 3 月 6 日に鎌倉市の海浜公園付近で本種を発見したので、報告する。同定は金井・田中(2018)に従い、葉が 3 回羽状に深裂し黄緑色で白味を帯びないこと、葉の軸で他物に巻きつき半つる性になること、花ははじめ白色で先端のみ紅紫色を呈し後に紅紫色に変化すること、萼は卵形で緑の鋸歯が目立ち長さは花の 1/2 ほどであることに拠った。本記録は、三浦半島(神奈川県南東部)において初記録となる。

今回発見したニセカラクサケマン(図 1, 2)は、鎌倉市由比ガ浜の自動車道路に面したシャリンバイの植栽に混生して生育し、約 10m の距離において繁茂していた。生育地は鎌倉海浜公園に近接し、発見時には工事車両を含む自動車や人の通りがみられる人為的な影響が考えられる環境であった。2022 年の発見以降、2023 年と 2024 年の 3 月には同所で個体を確認することができず、消失した可能性も考えられたが、2024 年 7 月と 2025 年 3 月には 100 個体以上の株と開花を確認した。地上部の高さ(長さ)は 1m を超えており、2022 年の発見時よりも繁茂していた。この間の本種の動向は不明である

ものの、現地の状況から除草作業により発見されなかったと推察した。相模原市の生育地では、発見から 10 年間はほぼ同所に存在していることが確認されているため(三樹, 2016)、今回発見した鎌倉市の生育地においても同様に定着する可能性がある。

また、2023 年 3 月には鎌倉市の大船駅前においても本種を確認している(図 3)。大船駅前では、アスファルトの隙間に 10 個体程度がみられるだけであり、体サイズは最大でも 30cm 程度と由比ガ浜の個体と比較して小型であった。乾燥した環境であったため、本個体の集団が定着することは考えにくい。しかしながら、鎌倉市において本種が分布を拡大する可能性は十分にあるため、注視したい。

標本：鎌倉市由比ガ浜 2022 年 3 月 6 日 中山博子 YCM-V-71515 (図 2)、鎌倉市大船 2023 年 3 月 30 日 田中美恵子・中山博子 YCM-V-71870 (図 3)

引用文献

- 秋山幸也, 2003. 相模原市内でニセカラクサケマンを確認. *Flora Kanagawa*, (55): 664–665.
- 金井和子・田中徳久, 2018. カラクサケマン属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 電子版, pp.670–671. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
- 三樹和博, 2016. 相模原市域(神奈川県北西部)における維管束植物相の特徴. 神奈川自然誌資料 (37): 11–16.



図 1. ニセカラクサケマン (鎌倉市由比ガ浜 2022 年 3 月 12 日 撮影：山本 薫).



図 2. 由比ガ浜で採集されたニセカラクサケマンの標本(鎌倉市由比ガ浜 2022 年 3 月 6 日 中山博子 YCM-V-71515).

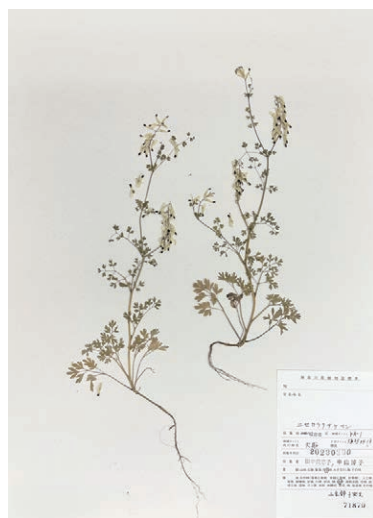


図 3. 大船で採集されたニセカラクサケマンの標本(鎌倉市大船 2023 年 3 月 20 日 中山美恵子・中山博子 YCM-V-71870).

鎌倉市でイブキシダを確認

(小久保恭子)

2024 年 11 月 17 日、鎌倉市朝比奈切通しでイブキシダ *Thelypteris esquirolli* (Christ) Ching を確認したので報告する。

イブキシダはヒメシダ科ヒメシダ属に属する。国内では栃木県から沖縄県まで分布し、主に日当たりのよい川沿いなどに生育する(海老原, 2016)。『神奈川県植物誌 2018』(田村, 2018)では、入生田で確認されており、過去には 1987 年に座間市で採集されているが、県東部では見つかっていなかった。

現地は有名な散策路でハイカーも多い。切通しの間の小さな沢沿いの道で、晴れた日でもコース上に水が流れているような場所である。当日は日本シダの会関東支部の観察会の下見のため、神奈川県植物調査会の会員でもある岡 武利氏、日本シダの会の江口哲平氏と共に現地を歩いていた。先に行く二人を追うようにゆっくりと歩いていると、ホシダにしては小羽片の雰囲気になんとか違和感を感じるシダがあり近寄って丁寧に観察すると羽片の下部が著しく縮小し、通気孔も有り、イブキシダではと思い、慌てて前を行く 2 人に声をかけ、3 人で確認をした。現地は植物観察会もしばしば行われ筆者自身も何度となく歩いている場所であるが、おそらく手前からホシダが多く生育しており、それと混同して見落としていたかと思う。

千葉県でも 2024 年 10 月に消滅していたイブキ

シダが 26 年ぶりに以前とは別の場所で再発見されたという報告がある(荒井, 2024)。神奈川県でも葉山町森戸川など、他の場所での発見も期待される。

なお、当日、イブキシダを確認の後、横浜市側に入り熊野神社で以前生育していたコケシノブ科アオホラゴケ属のウチワゴケ *Crepidomanes minutum* (Blume) K.Iwats. を探したが、以前着生していた樹幹には見つけることができなかった。しかし、その後、江口哲平氏がハイキングコース沿いの岩壁で小規模の群落を見つけ、2025 年 3 月に標本を採集することができた。『神奈川県植物誌 2018』のための標本データベースによると、横浜市の同地域での確認は 1997 年以来、28 年振りとのことで併せて報告する(同市緑区では 1999 年に採集された標本がある)。

標本：イブキシダ 鎌倉市十二所 2024 年 11 月 17 日 小久保恭子 KPM-NA0326959.

ウチワゴケ 横浜市金沢区朝比奈町 2025 年 3 月 4 日 小久保恭子 KPM-NA0326960.

引用文献

- 海老原 淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I . 475pp. 学研, 東京 .
- 田村 淳, 2018. ヒメシダ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 (上) . pp.69-77. 神奈川県植物調査会, 小田原 .
- 荒井智貴, 2024. イブキシダを千葉県で 26 年ぶりに発見、日本シダの会会報, 4(48): 12-13.

40 年ぶりに横須賀市で発見された

クロカワズスゲ (カヤツリグサ科)

(山本 薫・中山博子・石橋美春)

クロカワズスゲ *Carex arenicola* F.Schmidt (カヤツリグサ科) は、北海道、本州、四国、九州; 東北アジアに分布し、海岸や湖畔などの砂質の湿地に生育する(勝山, 2005; 勝山, 2018)。本種のタイプ産地は横須賀と鎌倉であり (Franch & Savatier, 1878), 神奈川県内では、相模川河口、三浦半島、箱根精進池などに記録がある(勝山, 2001; 勝山, 2018)。箱根精進池畔の砂地には安定して生育しているものの、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市には点在する程度であること、横須賀市と逗子市では 40 年以上記録がないことから、本種は神奈川県準絶滅危惧となっている(田中ほか, 2022)。著者らは、2024 年 4 月 11 日に横須賀市において 40 年ぶりにクロカワズスゲを確認したので報告する。

同定は勝山 (2018) に従い、花穂が 1 節に複数つ

き、匍匐根茎が長くのびること、高さ 10 ~ 30cm, 葉は硬く幅 2 ~ 3mm, 花序は長さ 1.5 ~ 3cm, 幅 6 ~ 10mm, 苞に葉身はほとんどなく花穂は長さ 5 ~ 8mm, 鱗片は褐色を帯びることに拠った。

過去に横須賀市で確認された標本は三浦半島の東側に位置する津久井産のものであるが(横須賀市津久井 1984 年 5 月 3 日 西山清治 YCM-V-11282), 今回の発見地である長坂は三浦半島の西側に位置する。そのため、過去に記録がない三浦半島の他の地域でも分布している可能性を考慮して、今後も調査する必要がある。

標本：横須賀市長坂 5 丁目 (沢山池) 2024 年 4 月 11 日 中山博子 YCM-V-71824 (図 1)

引用文献

- 勝山輝男, 2005. 日本のスゲ. 375pp. 文一総合出版, 東京 .
- 勝山輝男, 2001. クロカワズスゲ節. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001. pp.448. 神

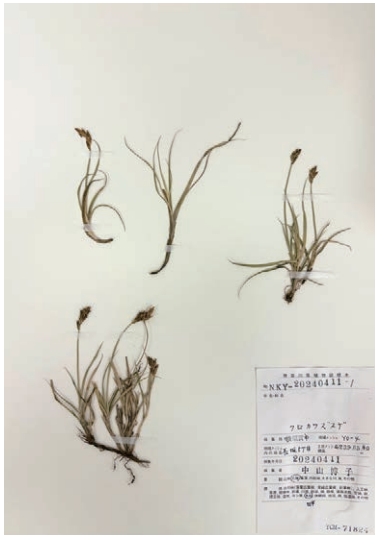


図 1. クロカワズスゲ (横須賀市長坂 5 丁目 2024 年 4 月 11 日 中山博子 YCM-V-71824)。

神奈川県植物誌調査会, 小田原。

勝山輝男 2018. クロカワズスゲ節. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 電子版. pp. 470–471. 神奈川県植物誌調査会, 小田原。

田中徳久・勝山輝男・秋山幸也・大西 亘・田村 淳・山本 薫・石田祐子, 2022. 維管束植物. 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県レッドデータブック 2022 植物編, pp.44–326. 神奈川県, 横浜。

Franch A. & L. Savatier, 1878. (2061). *Chætorhiza*.
Franch A. & L. Savatier, 1877-1879. *Enumeratio plantarum in Japonia sponte crescentium: hucusque rite cognitarum, adjectis descriptionibus specierum pro regione novarum, quibus accedit determinatio herbarum: in libris japonicis Sô mokou Zoussetz, Xylographice delineatarum*. Vol. 2., pp. 552-553. F. Savy, Paris.

横須賀市で発見されたオヒゲシバ (イネ科)

(山本 薫・富高みち子・関口克己・中山博子)

オヒゲシバ *Chloris virgata* Sw. (イネ科) は, 熱帯アメリカ原産の帰化植物であり, 神奈川, 千葉, 三重, 兵庫, 岡山, 熊本などの各県に帰化している (木場, 2018)。国内では戦前 (1945 年以前) から, 神奈川県では 1958 年には記録があり, 1980 年代以降は県内の相模原市, 座間市, 横浜市, 海老名市, 藤沢市, 三浦市において確認されている (勝山, 2012 ; 木場, 2018)。三浦半島では, 2001 年に

高橋秀男が三浦海岸駅で採集した標本が横浜市こども植物園に収蔵されている。著者の富高は, 2024 年 12 月 23 日に横須賀市においてオヒゲシバを発見したので, 三浦半島の 2 例目の記録として報告する。

同定は勝山 (2012) に従い, 小穂は 2 小花からなること, 第 2 小花は切形で長さ 10mm 程度の芒があることに拠った。生育地は自動車道路沿いのアスファルトの割れ目であり, 叢生する乾燥したエノコログサの中に 2 株混生していた。また, いずれも株には複数の総がみられた。

神奈川県内の 1990 年代, 2000 年代の記録は輸入乾草に由来するものと推察されており (勝山, 2012), 畜産農家が複数存在する三浦半島 (神奈川県南東部) においても同様のことが考えられる。三浦半島での本種の記録は稀であり, 今回発見できた株も少数であるが, 他の地点でも生育している可能性を考慮して調査したい。

本種の標本作製にご協力いただいた金子龍次氏に感謝申し上げる。

標本: 横須賀市佐島 2024 年 4 月 11 日 富高みち子 YCM-V-71871 (図 1) ; 三浦市三浦海岸駅付近 2001 年 10 月 22 日 高橋秀男 YCB426608.

引用文献

勝山輝男, 2012. 日本で記録されたイネ科オヒゲシバ属の外来種. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (41): 27–33.

木場英久, 2018. オヒゲシバ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018 電子版. pp.657–659. 神奈川県植物誌調査会, 小田原。



図 1. オヒゲシバ (横須賀市佐島 2024 年 4 月 11 日 富高みち子 YCM-V-71871)。

コシロノセンダングサとアイノコセンダングサの中間型

(石田祐子)

今回、小田原市内(図1・2)や真鶴町(図3)で頭状花に白色の筒状花と、白色の舌状花の両方をもつ個体(中間型)が複数確認されたので報告する。

『神奈川県植物誌2018』では、センダングサ属 *Bidens* L. について、葉の裂片は10対以上の鋸歯があり、舌状花のないものをコセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *pilosa*、白色舌状花(舌状部の長さは10mm)の出るものをコシロノセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *minor* (Blume) Sherff としている(勝山, 2018)。また、アイノコセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *intermedia* Ohtani & Shig. Suzuki は、「コセンダングサとコシロノセンダングサとの雑種と推定されているもので、頭花の外周の筒状花の裂片のいくつかが拡大し白色となるもの」としている(勝山, 2018)が、アイノコセンダングサの原記載(Ohtani & Suzuki, 1960)では、コセンダングサとアワユキセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *bisetosa* Ohtani & Shig. Suzuki の推定雑種とされている。

Ohtani & Suzuki (1960) では、アイノコセンダングサは、「白い舌状花は出ないが外側の管状花に白色のものがでて、管状花の上端5歯の部分が他の管状花より大きく広がっている」とある。また、同時に発表されたアワユキセンダングサは、「白の舌状花が5~6個ある」とされている(Ohtani & Suzuki 1960)。刺芒毛について、コセンダングサは3~4まれに5、アイノコセンダングサは2~3、アワユキセンダングサは2で、瘦果の表面

の腺(疣)は、コセンダングサとアイノコセンダングサには見られるが、アワユキセンダングサにはないとされる(Ohtani & Suzuki 1960)。今回採集した標本は、花の咲き始めの状態であったため、刺芒毛や瘦果の表面の腺については確認できていない。今後はそれらの形態にも注意していきたい。

コセンダングサは熱帯アメリカ原産の一年生草本で、世界的に暖帯から熱帯に分布する農耕雑草であり、日本国内には江戸時代に渡来し、本州中部以西の畑地や牧草地、芝地、道端、荒地などに群生する(清水ほか, 2018)。コシロノセンダングサはコセンダングサの変種であり、本州中部以西の都会付近の荒地に多いとされる(清水ほか, 2018)。また、田中ほか(2021)は、岡山県内で、コセンダングサとコシロノセンダングサの2分類群の中間型の花の形態をもつ *Bidens* を確認している。

コシロノセンダングサやアイノコセンダングサらしき個体を見かけた際は、頭状花に白色の筒状花や舌状花があるかなどに注意して観察して欲しい。舌状花は非常に落ちやすいため、標本を採取される際は、写真を撮影する、備考に記述するなどで確実な記録をしていただければ幸いである。



図2. 小田原市鴨宮の標本採集個体(2023年11月5日撮影: 石田祐子; a: 白い舌状花をもつ頭状花, b: 白い筒状花をもつ頭状花)。



図1. 小田原市鴨宮の標本採集個体(2023年11月5日撮影: 石田祐子)。



図3. 真鶴町真鶴の標本採集個体(2023年11月16日撮影: 石田祐子; a: 白い舌状花をもつ頭状花, b: 白い筒状花をもつ頭状花)。

目 次

勝山輝男：藤沢市川名のキンキエンゴサク	1145
大西 亘・佐藤登喜子・勝山輝男： 神奈川県新産のセイタカカナビキソウ（オオバコ科）を川崎市に記録	1146
山本 薫・中山博子：鎌倉市で確認されたニセカラクサケマン（ケシ科）	1148
小久保恭子：鎌倉市でイブキシダを確認	1149
山本 薫・中山博子・石橋美春： 40年ぶりに横須賀市で発見されたクロカワズスゲ（カヤツリグサ科）	1149
山本 薫・富高みち子・関口克己・中山博子 横須賀市で発見されたオヒゲシバ（イネ科）	1150
石田祐子：コシロノセンダングサとアイノコセンダングサの中間型	1151
渡辺昭彦：横浜市域の調査メンバー募集	1152
2025年度の調査会総会の報告	1152
編集後記	1152

標本：小田原市鴨宮 石田祐子 2023年11月5日
KPM-NA0241247 (YI202311-9), 真鶴町真鶴
石田祐子・中山博子・松岡輝宏 2023年11月
16日 KPM-NA0225381 (YI202311-10).

引用文献

- 勝山輝男, 2018. キク科センダングサ属. 神奈川
県植物誌 2018 電子版 初版 . p 1645–1651. 神奈
川県植物誌調査会編, 小田原 .
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七, 2018. 帰化植物
写真図鑑 (第7刷). 553pp. 株式会社全国農
村教育協会, 東京 .
- Ohtani, S. & Suzuki, S., 1960. Some notes on *Bidens*
pilosa L. and its new varieties, var. *intermedia*
and var. *bisetosa*. Science Report of the Yokosuka
City Museum (5): 14-17.
- 田中千尋・首藤光太郎・矢野興一, 2021. 岡山県
瀬戸内市前島で見出されたキク科センダング
サ属植物. Naturalistae 25: 15-21.

横浜市域の調査メンバー募集

(渡邊昭彦)

横浜ブロックでは、新たな調査体制を作りたい
と思います。現在、横浜市内で活動されている方
は、改めて現在の担当者の渡邊昭彦までお知らせ
ください。新たに参画したい方も大歓迎です。同
様に、下記連絡先までご連絡ください。ご協力宜
しくお願いいたします。

連絡先：渡邊昭彦 E-mail: florakana.yokohama@
gmail.com

2025年度の調査会総会の号報告

(事務局)

2025年4月6日(日)に開催した総会の報告を
本誌と同封します。総会時にご指摘いただきました
資料の不備(会計資料の転記ミス、ブロック役員の
誤り)を修正したため、総会時配布資料と異なる点
があります。事務局の不手際を重ねてお詫び申し上
げます。

また、総会後に、九州大学の夫婦石千尋氏に「生
息地点数を使って植物の絶滅リスクを評価する～神
奈川県植物誌データの凄さとは～」と題して講演い
ただきました。関連して、『神植誌 18』の補充調査
を実施します。詳細は、本誌に同封しましたので、
あわせてご覧ください。

編集後記

Flora Kanagawa 96号をお届けします。総会の報
告を送付しなかった事情を汲んでいただき、さっ
そく原稿を投稿いただいたみなさん、ありがとう
ございます。今年度は久しぶりの年3号の発行と
なるでしょうか。引き続き、原稿をお待ちしてい
ますので、よろしくお願いします。(田中徳久)

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000円